

平成29年度 第3回 常磐公園の緑を考える集い

～市民協働による公園管理～



平成30年1月16日撮影



平成29年9月26日撮影

はじめに

1) スケジュール

平成28年度（3回開催）

平成29年度

第1回 ○春期自然環境調査報告・常磐公園の管理作業

第2回 ○自然環境調査報告
○常磐公園の管理作業・管理の実践内容検討

第3回 ○市民協働による維持・管理の実践内容

今回

平成30年度予定

○市民協働による維持・管理の実践
および実践内容検討
（実施1～2回・内容検討1回を予定）

2) 本日のプログラム

- 14:00 開会 (5分)
- 14:05 オリエンテーション (5分)
- 14:10 資料説明 (15分)
 - ・ブッシュについて
 - ・自然更新ゾーンについて
 - ・自然環境調査結果公開
- 自然環境PRの紹介について
- 14:25 維持管理項目の検討 (90分)
- 15:55 今後の予定 (5分)
- 16:00 閉会

3

前回の概要

1) 説明事項

- ・自然環境調査結果概要
- ・自然更新ゾーン、ブッシュ、緩傾斜化区域の現状について
- ・維持管理項目の検討

2) 意見交換

- ・自然更新ゾーンや緩傾斜化区域については現状を見守るべき。
- ・ブッシュについて、範囲が狭い。オオヨモギを植えカンタンを誘う下地を作るのもおもしろい。
- ・最新調査で確認されたツチガエルやアズマヒキガエルは駆除を検討すべき。

4

1 自然更新ゾーンについて



実生

来年度の対応

実生を数本確認していることから、現状のまま計画を見守ります。

※融雪後に実生の確認を市で行います。



5

2 ブッシュの設置状況について



ブッシュゾーン

ブッシュ（草地・低木の茂み）を形成しています

※こちらの囲いの中では、豊かな生態系を目指すため、特に昆虫類相が豊富となるよう、草刈りなどの管理を低減してブッシュを形成することを試験的にを行っています

ブッシュに関する
御意見・お問い合わせ先
旭川市役所
公園みどり課公園建設係
TEL: 25-9705



掲示看板

来年度の対応

基本的には現状維持するものとしてします。
「集い」で設定した方針等ができれば、その方針に基づいた計画をたてていきます。

検討事項

- ヨモギの植栽
- アンケート内容
- 指標について

6

2 ブッシュの設置状況について

指標の検討

平成25年度に国土交通省で策定した「都市の生物多様性指標（素案）」を準用して、指標を設定しブッシュを観測していく

調査場所	
時期・頻度	
リファレンス種	

7

3 自然環境PR

自然環境調査結果を
ホームページに掲載しました

旭川市
ASAHIKAWA CITY

くらし イベント 観光 事業者向け 施設一覧 市政情報

ホーム > くらし > 水道・緑・土木 > 河川・公園 > 公園 > 常盤公園自然環境調査（整備後）

▼ ガイドナビを聞く

常盤公園自然環境調査（整備後）

情報発信元 公園みどり課 | 最終更新日 2015年8月30日 | ページID 063106 | 印刷

常盤公園自然環境調査結果（整備後）について

常盤公園の改修事業完了後の環境調査を行い、環境の変化を把握するとともに、常盤公園の維持管理の手法等を検討する際の資料とするため平成28から29年の1年間、再度自然環境調査を行いました。本調査結果は、事前調査（平成25年から26年）の調査結果および整備前後の環境変化の考察についても掲載しています。

- ・常盤公園自然環境調査結果
- ・常盤公園自然環境調査（資料編）

常盤公園自然環境調査ワークショップ

自然環境調査にあたっては、地元の動植物等に精通する市民の協力を得て意見交換等を行うことが、調査内容の充実のために必要であることから、常盤公園自然環境調査ワークショップを開催することとしました。

第1回

第1回詳細

日時 平成28年 9月5日(月曜日)

注目情報

- ・道北プロモーション動画
- ・高梨沙羅選手 平昌オリンピック銅メダルおめでとう！
- ・鈴木夕湖選手 平昌オリンピック銅メダルおめでとう！
- ・平昌オリンピック・パラリンピック出場選手を応援しよう！！
- ・プラスチック製容器包装ごみへの異物混入について

8

3 自然環境PR

「常磐公園で会える生きものたち」をホームページに掲載、現地でもQRコードで簡単に閲覧できるようにしました。

Googleマップに移動して表示する
(新しいウィンドウが開き旭川市のサイトを離れます)

常磐公園プロモーション映像



常磐公園のプロモーション映像（新しいウィンドウが開きます）です。
平成28年(2016年)5月に開園100年を迎えた常磐公園の魅力を市民の皆さんに再認識してもらうべく作成されたものです。
寄贈：一般社団法人旭川青年会議所

常磐公園で会える生きものたち

平成25から26年および平成28から29年に行った常磐公園自然環境調査の結果をもとに、常磐公園で会える生きものについてパンフレットを作成しました。
公園散策時などにお役立てください。
[常磐公園で会える生きものたち（PDFファイル）](#)

常磐公園の緑を考える集い

平成27年度に市民ワークショップを経て旭川市が策定した「常磐公園緑地計画」にも位置づけしている市民協働による維持管理を実施していくため、常磐公園に適した維持管理の規定や手法を旭川市と市民が共に検討していくことを目的として「常磐公園の緑を考える集い」を開催いたします。

平成28年度 第1回

9

3 自然環境PR

常磐公園の生きもの情報
載ってます♪



QRコード

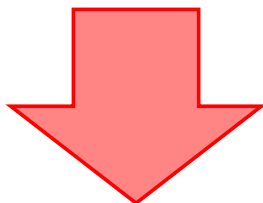


10

4 市民協働による維持管理について

これまで開催してきたなかで、特に御意見・御要望の多かった項目を整理しました。（巻末資料を参考ください）

並行作業は難しいため優先順位をつける



検討条件

- ・市民協働で実行可能なこと
- ・予算がほぼ見込めないこと
- ・「緑を考える集い」であること
- ・時間的制約

今後、次の項目を検討の軸とします。

- 樹木更新にむけて
～点検内容や更新樹種の検討方法について～
- ブッシュ・自然更新ゾーンの観測
- 外来種対策（植物・生物）

今後は作業内容の実施活動に移行します

11

参考 ～常磐公園の緑を考える集い開催目的～

旭川市が策定した「常磐公園植栽計画」に位置づけしている計画的な緑の更新や維持管理を市民協働により実践していくため、常磐公園に適した維持管理の規定や手法を旭川市と市民が共に検討していく

5 まとめ

1) 意見など

2) 次回について

平成30年6月頃を予定

予定内容

- ・ 樹木観測
- ・ ブッシュ観察
- ・ 外来種駆除活動

12

アンケートに 御協力ください！

常磐公園の緑について

旭川市では常磐公園の豊かな生態系をめざすため、昆虫類などの生育環境となるブッシュ（草地）を下図の範囲に試験的に形成します。

一方で、ブッシュ環境の創出には低管理・無管理（放置）となることから、人の立ち入りが制限されてしまうといった問題も発生します。

皆様に親しまれる常磐公園となるよう、ブッシュの運用等について、アンケートに御協力願います。



試験ブッシュ



ブッシュに関する詳細・お問い合わせは

旭川市役所土木部公園みどり課

TEL：0166-25-9705

FAX：0166-24-7010

E-mail：kouenmidori@city.asahikawa.hokkaido.jp

アンケートは裏面にあります

回答欄に番号を記入してください（複数回答可）

問1 常磐公園におけるブッシュの設置について

①より豊かな生態系のためには設置した方がよい

②設置した方がよい（①以外の理由）

（その理由_____）

③設置すると安全上・景観上の問題が懸念される

（問5へお進みください）

④設置は控えた方がよい（③以外の理由）

（その理由_____）（問5へお進みください）

⑤その他_____

回答

問2 試験ブッシュの位置・範囲設定について

①適切だ

②位置・範囲が適切でない

（適切と考える位置・範囲を表面の図に書き込んでください）

③その他_____

回答

問3 試験ブッシュへの人の侵入について

①侵入しても問題ない

②禁止した方がよい（危険である・生態系への配慮）

③原則禁止し許可制とする（虫の観察会等）

④その他_____

回答

問4 ブッシュの今後の対応について

今後、さらに豊かな育成環境とするためブッシュ範囲を拡大すべきと思いますか。

①現状と同じでよい（拡大する必要は無い）

②拡大したほうがよい

（適切と考える位置・範囲を図に書き込んでください）

③拡大したほうが育成環境にはよいと思うが、現状と同じまたは縮小すべき

（その理由_____）

④その他_____

回答

問5 ブッシュについて御意見等ありましたら御記入ください



御協力ありがとうございました

都市の生物多様性指標（素案）

平成25年5月

国土交通省 都市局 公園緑地・景観課

1. 背景

生物多様性は、人類の存続の基盤であるとともに、地域における固有の財産として地域独自の文化を支えるなど、様々な恩恵をもたらすものである。しかし、人間が行う開発等による生物種の絶滅や生態系の破壊、社会経済情勢の変化に伴う人間の活動の縮小による里山等の劣化、外来種等による生態系のかく乱等の深刻な危機に直面している。そのため、近年、生物多様性の確保のための取組が国際的にも国内においても必要とされている。

国際的には、平成 22 年 10 月に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）において、平成 23 年（2011 年）以降の生物多様性の確保に関する「新戦略計画・愛知目標」が採択されたほか、決議 X/22「生物多様性のための準国家政府、都市及びその他地方自治体の行動計画」も採択され、行動の例として、都市のインフラ整備等に生物多様性への配慮を組み込むことや、都市の生物多様性に関する指標等のツールを用いて地方における生物多様性の状態及びその管理の状態を把握することの奨励等が決定された。また、生物多様性条約第 11 回締約国会議（COP11）において、決議 XI/8「ステークホルダ、主要団体及び地方自治体の関与」が採択され、例えば都市の生物多様性指標に基づき、愛知目標の達成に向けた都市の合意形成の進展を把握する指標開発のための生物多様性指標パートナーシップを奨励すること等が決定された。

国内では、生物多様性基本法（平成 20 年法律第 58 号）、地域における多様な主体の連携による生物の多様性の保全のための活動の促進等に関する法律（平成 22 年法律第 72 号）の施行により、地方公共団体による生物多様性地域戦略の策定、地域における多様な主体の連携による生物多様性確保の活動が進んでいる。さらに、「生物多様性国家戦略 2012-2020」（平成 24 年 9 月閣議決定）には、具体的施策の一つに、都市の生物多様性指標等を活用した、地方公共団体における都市の生物多様性の状況や施策の進捗状況等の把握等を通じた都市の生物多様性の確保の取組の促進が掲げられている。

このように、今後、都市の生物多様性の確保に向けた取組みを進めていくためには、その状況及びその確保に向けた施策の進捗状況等を客観的に把握し、示すための指標が必要である。

2. 目的

これらを踏まえ、地方公共団体の都市の生物多様性の確保に向けた取組を一層支援することを目的に、都市の生物多様性の状況及びその確保に向けた取組の状況を地方公共団体が把握・評価し、将来の施策立案、実施、普及啓発等に活用できるよう、国内の都市において活用が可能な指標として、「都市の生物多様性指標（素案）」を策定した。

この指標は都市における生物多様性の状況やその確保の取組を分かりやすく表現し、都市における生物多様性に係る行政計画の目標設定や施策の進捗管理ツールとして活用が可能なものである。

なお、「都市の生物多様性指標（素案）」は、地方公共団体の活用を通じて、内容の検証、改善を図ることを前提に公表するものであり、活用状況等を踏まえ一層の充実を図る予定である。

3. 都市の生物多様性指標（素案）の構成

都市の生物多様性指標（素案）は、都市の規模や人口等を示す都市のプロフィールと、都市の生物多様性とその確保に向けた取組の状況を表す指標により構成される。

なお、指標項目のうち、指標1、2、6、7（灰色の網掛け部分）は、既存の全国調査データや地方公共団体が他の目的で定期的に実施する調査結果を活用して算定することが可能な指標であり比較的簡便性の高い指標であることから、都市の生物多様性指標の算定に当たっては、これらの指標を優先して算定することが望ましい。

表1 都市の生物多様性指標（素案）の構成

Ⅱ. 指標項目	I. 都市の プロフィール	規模（行政区域面積、都市計画区域・市街化区域面積） 人口（総人口・都市計画区域人口、人口密度） 地勢（年間平均気温、年間降水量、標高）
	生態系・ ハビタットの 多様性	指標1 <u>緑地等の現況</u> （都市における生物多様性確保のポテンシャルを有する緑地等の割合）
		指標2 <u>法令等に基づき確保されている緑地等の状況</u> （都市における生物多様性 確保のポテンシャルを有する法令等による継続性のある緑地等の割合）
		指標3 <u>都市におけるエコロジカルネットワークの状況</u>
		指標4 <u>動植物種の状況</u> （都市に生息・生育する動植物種数の状況）
	生態系 サービス	指標5 <u>生態系サービスの状況</u>
	都市の取組	指標6 <u>行政の生物多様性取組状況</u> （都市の行政計画における生物多様性の確保への配慮の状況）
		指標7 <u>行政計画への住民等の参加状況</u> （生物多様性の確保に関する都市の行政計画における住民・企業等の参加の状況）

指標 4 動植物種の状況（都市に生息・生育する動植物種数の状況）

（１）目的

都市における種の多様性の状況を示す。

（２）定義

都市に生息・生育する動植物種数の経年変化

（３）算定方法

当該都市における主な生態系に着目して調査地点（モニタリングサイト）及び当該調査地点におけるリファレンス種を設定し、その種数の任意の時点間における増減を算定する。

【留意事項】

- ・リファレンス種は、基準となる過去のある時点に生息又は生育していたと考えられる種等とする。
- ・リファレンス種の設定に当たっては、有識者の助言を踏まえるものとする。
- ・種数から特定外来生物及び要注意外来生物を除いて算定を行う。
- ・内訳として、絶滅危惧種の種数と増減を、国レベル、都道府県又は市町村レベルでそれぞれ把握することが望ましい。
- ・行政区域を対象として算定する。

【使用するデータ】

- ・地方公共団体等が独自に行う生物調査
- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成 16 年法律第 78 号）に基づき選定された特定外来生物等一覧
- ・要注意外来生物リスト（平成 17 年 8 月 環境省） 等

【算定に当たっての留意点】

- ▶ 当該都市における生態系の多様性に配慮して、有識者の検討を踏まえて調査地点、調査方法を設定することが望ましい。
- ▶ 対象とする生物は各地域が実情に合わせて選定する。なお、都市の生物多様性シンガポール指標では、維管束植物、鳥類、昆虫類のチョウ類が、在来種の種数の変化を把握する指標の中核に位置づけられている。
- ▶ リファレンス種等は、人為改変の小さい状態で当該地域に生息・生育する種が想定されるが、有識者の検討を踏まえて設定することが望ましい
- ▶ リファレンス種以外の種についても把握しておくことが望ましい。

（４）評価基準

算定方法	指標 1 の評価結果		
	D E	B C	A
暫定的方法	E	C D	B
	(20 % 未満)	(20 % 以上～50% 未満)	(50 % 以上)
5 地点以上で種数が増加	B	A	A
3～4 地点で種数が増加	C	B	A
1～2 地点で種数が増加	D	C	B
全地点で種数が現状維持	E	D	C
種数が減少している地点が存在	E	E	E

常磐公園自然環境調査

暫定的方法

地方公共団体の行政区域内又は当該都市の生物多様性を確保する上で重要な生態系、動植物の生息地又は生育地において、生息又は生育が確認された絶滅危惧種数の任意の時点間における増減を算定する。

【留意事項】

- ・都道府県又は市町村のレッドリストに基づく絶滅危惧種の種数が把握可能な場合は、あわせて把握することが望ましい。
- ・行政区域を対象として算定する。

【使用するデータ】

- ・環境省版レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）
- ・地方公共団体等が独自に行う生物調査 等

算定方法	指標 1 の評価結果		
	<i>D E</i>	<i>B C</i>	<i>A</i>
暫定的方法	<i>E</i>	<i>C D</i>	<i>B</i>
	(20 % 未満)	(20 % 以上~50% 未満)	(50 % 以上)
種数が 2 種以上増加	C	B	B
種数が 1 種増加	D	C	B
種数が 現状維持	E	D	C
種数が減少	E	E	E

常磐公園で会える生きもののたち

～常磐公園の木々～

園内では「ドロノキ」、「カツラ」、「ハルニレ」、「ミズナラ」、「エゾイタヤ」といった北海道を代表する木々がみられ、木陰は市民の「いこいの場」となっています。

<公園内でみられる木々>



⑥
(一年中)

ドロノキ



⑤
(一年中)

カツラ



⑤
(一年中)

ハルニレ



③
(一年中)

ミズナラ



③
(一年中)

エゾイタヤ

～常磐公園の草花～

園内では多くの草花をみることができます。春には「フクジュソウ」、「ムラサキケマン」、「ヒナギク」、「キバナノアマナ」、「チゴユリ」などの花がみられます。夏には「スイレン」、「ウツボグサ」、「イワニガナ」、「ヤマタニタデ」、「ツユクサ」などの花がみられ、公園を彩ります。

★★★：ふつうにみられる

★★：やや少ない

★：少ない

<春に公園内でみられる草花>



④
(4～5月)

フクジュソウ ★



③
(5～6月)

ムラサキケマン ★



⑥
(5～7月)

ヒナギク ★★★



⑤
(4～5月)

キバナノアマナ ★★



⑤
(5～6月)

チゴユリ ★★

<夏に公園内でみられる草花>



①
(7～8月)

スイレン ★★★



②
(6～8月)

ウツボグサ ★★



③
(5～7月)

イワニガナ ★★



④
(6～7月)

ヤマタニタデ ★



③
(7～8月)

ツユクサ ★★★

<探してみよう！その①>

園内では「シロツメクサ（クローバー）」を多くみかけます。この中に「四つ葉のクローバー」が混ざっていることがあります。四つ葉のクローバーは探し当てると幸運がもたらされると言われています。生えている場所は常盤館近くの土手です。ぜひ探して幸運をゲットしてください！

※写真の丸数字は見られる場所の番号（巻末参照）
※写真の（ ）内は見られる時期



③
(4～10月)

四つ葉のクローバー

<探してみよう！その②>

千鳥ヶ池の中島には「メタセコイア」という木が生えています。この木は「生きた化石」といわれ、化石とほとんど変わらない姿で現代にまで生育しています。

園内では大木に育ったメタセコイアを見ることができます。（木に名札が付いています）

メタセコイア



①
(一年中)

【お問合せ先】
旭川市土木部公園みどり課
旭川市6条通10丁目 市役所第3庁舎
電話番号 0166-25-9705
Email kouenmidori@city.asahikawa.hokkaido.jp

～常磐公園の鳥たち～

春になると園内のあちこちでたくさんの鳥が子育てをしています。おどかさないように観察していたら、親鳥たちが忙しく巣にエサを運んでいたり、巣穴から顔を出すヒナを近くでみることができます。また、夏になると巣立った子供をひきつれた家族があちこちでみられるかもしれません。



(一年中)

ムクドリ



(4～10月)

コムクドリ



(一年中)

シジュウカラ



(一年中)

アカゲラ



(一年中)

マガモ

★★★：ふつうにみられる
★★：やや少ない
★：少ない

<探してみよう！>

園内には街中でみることの少ない「イスカ」「コサメビタキ」「キビタキ」「オオルリ」など森林に住む鳥がおとずれています。また、夏になるとハヤブサの仲間の「チゴハヤブサ」や、千鳥ヶ池には、空飛ぶ宝石「カワセミ」もやって来ます。冬には、国の天然記念物の「オジロワシ」に出会えるかもしれません。



(11～5月)

イスカ



(5～9月)

キビタキ



(5～10月)

カワセミ



(5～9月)

チゴハヤブサ



(5～10月)

コサメビタキ



(4～9月)

オオルリ



(11～3月)

オジロワシ

～常磐公園のほ乳類～

暖かくなると「ヤマコウモリ」がやって来ます。つばさを広げると40cmもあるコウモリです。日本全国に分布しますが、大きな木の「うろ」をめぐらとするため、街中ではなかなかみることが出来ない生きものです。でも、常磐公園では毎年6-9月に中央花だん付近で飛び回る姿をみることができます。



うろから出てきたヤマコウモリ



飛び回るヤマコウモリ



<探してみよう！>

園内には「エゾアカネズミ」「エゾリス」なども住んでいます。彼らはとてもおくびょうなので、なかなか姿を見ることはできません。でも、木の下などをみると、穴のあいたクルミやボロボロになった松ぼっくりが落ちています。これは、彼らがご飯を食べたあとなので、もしかしたら、近くににいるかもしれません。



(一年中)

ネズミ類が食べたあと



(一年中)

エゾアカネズミが食べたあと

ネズミ類とエゾリスの
食べ方のちがいに注目！



(一年中)

エゾリスが食べたあと



(一年中)

たまにお散歩しています。



③④

(一年中)

キタキツネ

★★



①②

(一年中)

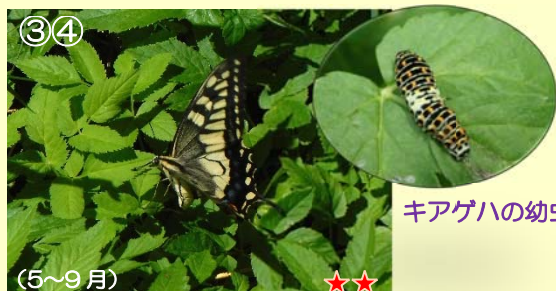
ミンク

★

★★★：ふつうにみられる
★★：やや少ない
★：少ない

～常磐公園の昆虫～

園内では「キアゲハ」「エゾシロチョウ」「エゾスジグロシロチョウ」などが花だんの上を飛んでいたり、みつを吸っていたりします。「キアゲハの幼虫」や赤黒もようのカメムシ「ナガメ」などハデハデな虫もいます。



(5～9月)

キアゲハ

キアゲハの幼虫

★★



(5～9月)

ナガメ

★★



(6～7月)

エゾシロチョウ

★★



(4～9月)

エゾスジグロシロチョウ

★★

はねのスジの入り方が違うので、見比べてみよう！

★★★★：ふつうにみられる

★★：やや少ない

★：少ない

<探してみよう！>

園内ではいろいろなトンボがみられます。トンボは自由に空を飛ぶ達人ですが、幼虫の間は水の中で生活します。成虫になるために、水の中からそばにある植物を使って出てくるので、水べと豊かな緑のある常磐公園はトンボにとって住みやすい環境なのかもしれません。大きくて青色のしましまもようがきれいな「オオルリボシヤンマ」や羽の先が茶色い「ノシメトンボ」はみつけやすいです。あと、「アキアカネ」「マユタテアカネ」「ウスバキトンボ」などがみられます。同じような「赤トンボ」でもちょっと違うので、そお～っと近づいて、見比べてみてください。



(7～9月)

オオルリボシヤンマ

★★

鼻の穴みたいな黒い点があります。



(7～10月)

ノシメトンボ

★★



★★ (7～10月)

アキアカネ



★★ (7～10月)

マユタテアカネ



★ (7～9月)

ウスバキトンボ

おなかの模様が違うので、見比べてみよう！

～公園の池には...～

園内の千鳥ヶ池や白鳥の池には、「モツゴ」、「コイ」、「ゲンゴロウフナ」、「キンギョ」、「キンフナ」、「ドジョウ」といった魚のなかまや、「スジエビ」や「マルタニシ」がくらしています。でも、スジエビとオオタニシ以外の魚たちはみんな公園の外から持ち込まれたもの、「**外来生物（がいらいせいぶつ）**」です。特に、モツゴは数が多く、池のあちこちで見られます。

★★★：ふつうにみられる

★★：やや少ない

★：少ない



モツゴ



コイ



ゲンゴロウフナ



キンギョ



キンブナ



ドジョウ



スジエビ



オオタニシ

～池のまわりには...～

池のまわりには、「ニホンアマガエル」、「ツチガエル」、「アスマヒキガエル」といったカエルのなかま、「クサガメ」、「ミシシippアカミミガメ」といったカメのなかまがくらしています。でも、ニホンアマガエル以外のカエルたち、カメたちはみんな公園の外から持ち込まれたもの、「**外来生物（がいらいせいぶつ）**」です。アスマヒキガエルは最近になって公園内でみられるようになりました。

★★★：ふつうにみられる

★★：やや少ない

★：少ない



ニホンアマガエル



ツチガエル



アスマヒキガエル



クサガメ



ミシシippアカミミガメ

<考えよう！>

外来生物（がいらいせいぶつ）とは...

もともと日本にいなかった生き物で、日本にやってきたもの（アメリカからつれてこられたミシシippアカミミガメなど）のことで、**人間によって持ち込まれたもの**のことをいいます。

外来生物に対して、昔からその地域に住んでいる生物のことを**在来生物（ざいらいせいぶつ）**といいます。

むずかしい話をする、外来生物とは、正しくは「もともといなかった地域に、つれてこられたり、やってきた生き物」の事をいいます。たとえば、クサガメはもともと北海道にはいなかったの、本州などから北海道につれてこられた外来生物になります。

外来生物のなかには、キンギョやクサガメ、ミシシippアカミミガメなど、ペットとしてかっていたのに、かいきれなくなって誰かが逃がしてしまったものもあります。

自然に逃がしてあげるとは、その生き物にとっても、まわりの生き物にとっても、とても迷惑（めいわく）なことです。かいはじめた生き物は、最後までちゃんとかわいがってくださーいね。（出典：環境省ホームページ <http://www.env.go.jp/nature/intro/Kids/index.html> から）

このパンフレットは平成 25～26 年および平成 28～29 年に行った自然環境調査の結果を基に作成しています。詳しい調査結果は<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/facility00/facility06/p004754.html> に掲載していますので興味のある方は是非ご覧になってみてください。

②で見られる代表種



コイ



オオルリボシヤンマ

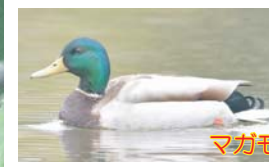
①で見られる代表種



モツゴ



カワセミ



マガモ

④で見られる代表種



フクジュソウ

⑤で見られる代表種



ハルニシ



アカゲラ

⑥で見られる代表種



ヒナギク



コムクドリ

③で見られる代表種



エゾイタヤ



キアゲハ

常磐公園の緑を考える集い 検討項目整理

今まで本集いを開催してきたなかで、皆様より特に御意見・御要望が多かった項目を再度整理し、今後の方向性を検討します。

方向性を決定するポイントとしましては市民協働であること、予算がほぼなくても実行可能なこと、などがあります。

No.	御意見・御要望が多かった項目	市の意見
1	ブッシュ・自然更新ゾーンの継続的な観測	ブッシュ・自然更新ゾーンについては引続き観測や設置目的に沿った対策・工夫を行っていきます。（別資料にて協議します）
2	千鳥ヶ池や排水路の浄化	池の浄化（水を抜き、底の洗浄）には多額の費用が必要なこと、部分的には臭気などがありますが簡易調査を実施したところ特に水質に問題が無かったことから当面は通常管理のみの対応とします。
3	常磐公園のPR（パンフレット・子ども向け学習会・樹名板）など魅力発信	自然環境調査結果を基にパンフレットを作成しました。（別資料参照） 学習会や樹名板の作成は次段階で検討したいと思います。
4	外来種対策（オオハンゴンソウ、アズマヒキガエル、ツチガエル）	今年度に引続きオオハンゴンソウの駆除を実施したいと考えています。あわせてフランスギク・イワミツバの駆除も検討します。 アズマヒキガエル・ツチガエルも最新の環境調査で確認されたので、有識者の指示を仰ぎながら検討していきます。
5	樹木の定期観測（更新計画）	前回開催時の資料などを参考に市民協働の樹木の観測について協議したいと思います。
6	「集い」参加者の募集について（より多くの参加者を、特に子ども）	今年度はこうほうやホームページで参加者を募集していきます。

この中から市民協働でできることや、すべて並行作業ではできないので優先事項を考慮し「常磐公園の緑を考える集い」としては次の項目を来年度以降実施していきたいと考えています。

- ・外来種駆除
- ・ブッシュおよび自然更新ゾーンの観測
- ・樹木の定期観測
- ・（常磐公園の魅力発信）

維持管理項目検討にあたり参加者よりいただいた御意見

- 千鳥が池の水を抜いて外来種等の排除を行う(年に1回)。千鳥が池の水を抜いて、池の中の生物の確認。予算がもしなければ、寄付等(NPO)を立ち上げてボランティアを募る。
- 春、桜の開花の頃に市民による公園の散策会の開催。
- 公園の散策ルート地図の作成・配付。歩きながら見られる小型の樹木など動・植物、記念碑、水域など示してはどうでしょう。
- 市民参加による、公園の将来像を話し合う会の開催。
- ブッシュ・自然更新ゾーンについて一試み(実験)としても、現在の4倍位の広さ(長さ?)がほしい。
- 「元・川のおもしろ館」内に売店を作る計画が... という”噂”をチラッと耳にしました。有識者の皆様はもちろんですが、より多くの市民参加による検討が必要だと思います。当時あった売店は売るだけでなく、“見守り”の役目もあったのではと思う。おもしろ館の中でなく、やはり外にあるべきでは、と...。
- どんな常磐公園であつたらいいのか、集まった人達の中で、共有できたらと思います。その部分がいまひとつはっきりしないのですが。柱が見えてくると、話し合われる項目内容も、充実してくるのではと思っています。

例. 1, 四季の彩り 常磐公園

2, 野鳥の中継所 常磐公園

3, カンタンの声・コウモリの営巣 常磐公園

4, だれもが集う 常磐公園

5, カワセミに会う 常磐公園

など、頭のテーマ(キャッチフレーズ)があると、どの方向で、何をしていくか見えてくるのかなーと思ったりしています。自然環境調査結果も具体的な生かし方が見えてくるのではと思うのですが。常磐公園の末永い景観維持のため、取り組み続けたいものです。

- 公園の魅力をどう作っていくか話し合いたいと思っています。
- 市民協働の維持管理と共に市民の公園利用活動を活発にすることも考えてみてはどうだろう。考える集いのメンバーが主体になっての活動方法など検討してもいいのではないのでしょうか。

侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 両生類 > ツチガエル

ツチガエル

基本・侵入情報

参考資料リスト

基本情報	
和名	ツチガエル
分類群	両生綱 無尾目 アカガエル科 (Ranidae, Anura, Amphibia)
学名	<i>Rana rugosa</i>
英名等	wrinkled frog
自然分布	本州、四国、九州および周辺島嶼(佐渡島、隠岐、五島列島、奄岐、屋久島、種子島など)、朝鮮半島、中国東北部、極東ロシア沿岸地域
形態	体長雄30～47mm、雌45～60mm。体重雄2～11g、雌10～24g。背面は灰褐色でいぼがたくさんあり、触るとざらつく。腹面にも細かい斑紋が一面にあり黒っぽく見える。つかむと悪臭のある粘液を分泌する。染色体数2n=26。
生息環境	都市部の人工池から水田、河川、山間の溪流、湿原までの水辺近く。 温度選好性:
繁殖生態	雄は水面で「ギュー、ギュー」という声で鳴く。卵は小卵塊として何回かに分けて産出され、一部の雌は長い繁殖期の中で2回産卵する。オタマジャクシは越冬し、翌年、80mmほどに達して変態する。幼生越冬するため、繁殖のためには永続的な水面が必要である。産仔数:1回の産卵数は690～2,900個程度。 繁殖期:5月末～8月末。
生態的特性	12月下旬頃から池や水路の泥中などで越冬する。幼生越冬することと合わせ、水への依存度が高いカエルと言える。 食性:肉食性。アリ、バッタ等小さな昆虫やクモを捕食する。
侵入情報	
国内移入分布	伊豆諸島(大島、新島、三宅島)、北海道(南部～西部の複数地域)。定着の有無は不明だが、口之島(トカラ列島)からも記録されている。
移入元	不明。国内の複数地域と考えられている。
侵入経路	北海道には養殖用のコイの種苗に混じって幼生が持ち込まれた可能性が高い。
侵入年代	北海道では1985年頃に初めて記録された。
影響	不明
法的扱い	特になし。
防除方法	繁殖期を中心に水辺を見回り、成体や卵塊、幼生を取り除くことが現実的。
問題点等	
海外移入分布	ハワイ(日本から移入)

クリックすると拡大画像が表示されます



琉球列島



※必ずしも色が塗られた地域全体に分布するわけではありません

備考

侵入した本種による問題点は特に指摘されていないが、もし高密度に達した場合には昆虫やクモ類等の小動物に影響が及ぶと考えられる。体表の粘液には悪臭があり、カエル食のヘビ類が本種を嫌うことから、侵入先でも捕食されにくく、増殖しやすいことが考えられる。国外ではハワイ諸島に導入され定着している。

基本・侵入情報

参考資料リスト

侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 両生類 > アズマヒキガエル

アズマヒキガエル

基本・侵入情報

参考資料リスト

基本情報	
和名	アズマヒキガエル
分類群	両生綱 無尾目 ヒキガエル科 (Bufonidae, Anura, Amphibia)
学名	<i>Bufo japonicus formosus</i>
英名等	Japanese common toad
自然分布	北海道を除く東日本に広く分布。島根半島・鳥取県・近畿地方北部、志摩半島・紀伊半島中部、中部地方以東。
形態	体長43-162mm, 体重6-450g。体サイズは地域個体群によって著しく異なる。原名亜種ニホンヒキガエルに比べて鼓膜が大きい(長径は目-鼓膜距離の2倍以上)。染色体数2n=22。
生息環境	農耕地、二次林、草原、自然林、都市公園、埋立地など幅広い。垂直分布の幅も広く、海岸近くから高山帯に至る。温度選好性: 北海道南部から九州南部までの気候には十分に適應できる。南西諸島の気候に適應できるかどうかは不明。
繁殖生態	止水に多数の雄が集まり、「クッククッ…」と聞こえる声で鳴く。繁殖は池、湿原、湖などの浅い止水で、同じく早春に繁殖するニホンアカガエル等に比べて深い池が好まれる。ゼリー層に包まれた紐状の卵塊(卵紐)を産出する。産仔数: 蔵卵数は1,500-14,000個。大型の雌は多くの卵を産む。 繁殖期: 早春に繁殖。本州中部の平野部ではソメイヨシノの花が咲く頃に繁殖を終える。ひとつの個体分の繁殖期は1週間ほどであるが、地域による繁殖期の差が大きく、亜種全体で見ると2-7月。
生態的特性	主に夜行性で、やや開けた地表で採食する。皮膚から毒液を分泌する。天敵の少ない島嶼等に導入されるときわめて高い密度に達することがあり、在来地表性昆虫等に大きな影響が及ぶ。食性: 肉食性。地表に生息する昆虫(特にオサムシなど地表性の甲虫やアリ)、ミミズ、クモなど。
侵入情報	
国内移入分布	北海道(旭川、室蘭、函館)、佐渡島、伊豆諸島(大島、新島、三宅島)に移入。北海道では、石狩・札幌市などでも記録されている(繁殖の有無は不明)。
移入元	
侵入経路	不明であるが、興味本位であるいは実験材料として運ばれた可能性が高い。資材等に紛れて非意図的に導入された可能性もある。
侵入年代	詳細は不明。伊豆諸島ではまず大島にもたらされ、1980年頃に大発生して問題となった。
影響	在来生物の捕食。 影響を受ける生物: 食物となる地表性の無脊椎動物群集に影響を与える。
法的扱い	特になし。 広義のヒキガエル属 <i>Bufo</i> は、外来生物法で全て未判定外来生物に指定されている(特定外来生物指定種、要注意外来生物指定種、国内産種を除く)。また、広義のヒキガエル属全種、無尾目全種の幼生は全て種類名証明書の添付が必要。
防除方法	繁殖期に池を高頻度で見回り成体や卵紐を取り除くことが現実的。本格的に駆除する場合には、繁殖期間中に繁殖池をカエルが越えられないフェンスで囲み、侵入を阻む方法が考えられる。
問題点等	本種は国内に広く分布し、多くの日本人が身近に接していることから、移動や放逐が特段悪いことと認識されていない。分布域外への放逐は生物多様性の低下をもたらしうることを広く普及啓発することが重要。
海外移入分布	

クリックすると拡大画像が表示されます



©岡本 卓

琉球列島



● 在来分布 ● 移入・在来両方
● 移入分布 ● 在来かどうか不明

※必ずしも色が塗られた地域全体に分布するわけではありません

備考

本種は国内に広く分布し、多くの日本人が身近に接していることから、移動や放逐が特段悪いことと認識されていない。分布域外への放逐は生物多様性の低下をもたらしうることを広く普及啓発することが重要。

基本・侵入情報

参考資料リスト

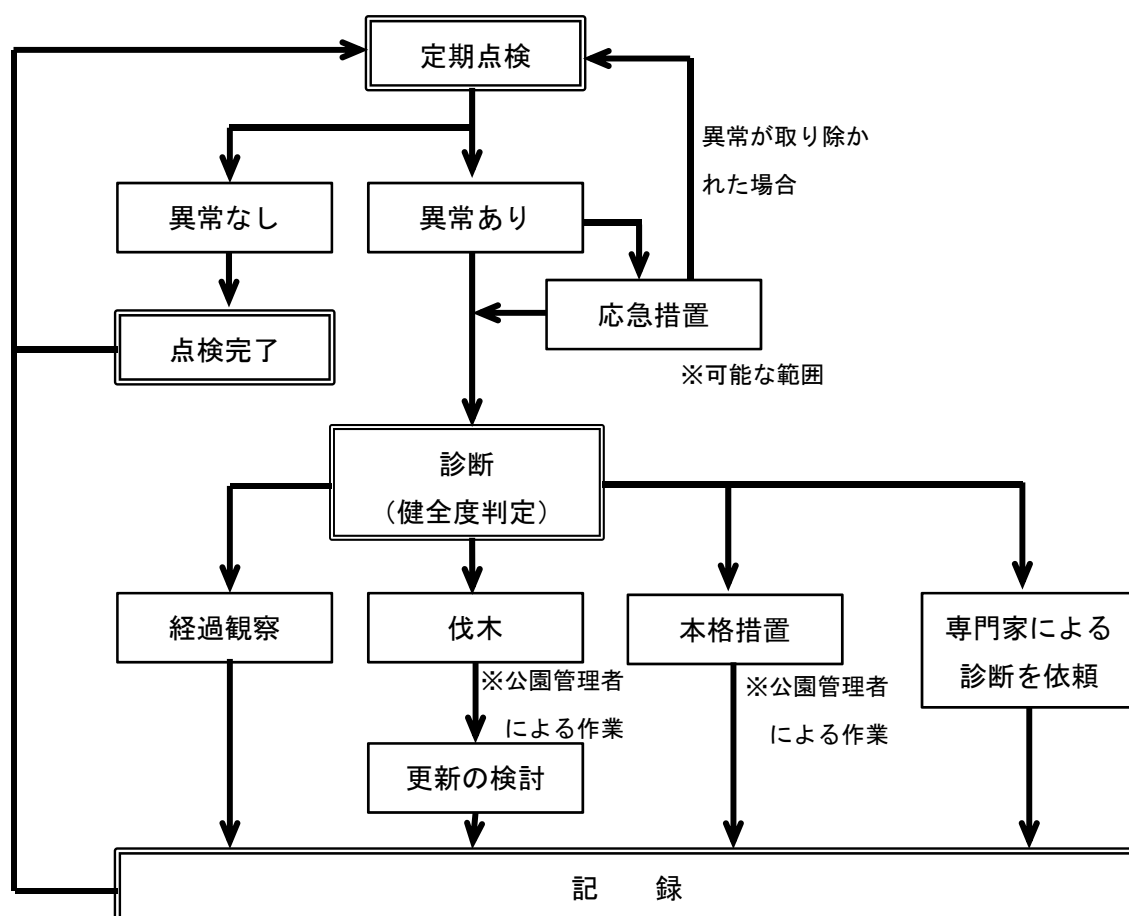
常磐公園の樹木の点検・診断について(案)

平成 29 年度第 3 回

常磐公園の緑を考える集い

樹木の点検・診断について

- 常磐公園の樹木の更新計画検討に先立ち、更新計画検討時に参考となる資料を作成するため、樹木に関する現状を市民協働による点検作業により把握し、特に異常が認められる場合は診断票を作成し整理する。
- 点検対象とする樹木は概ね樹高 3m 以上の樹木とする。
- 点検は市民協働により実施し、目視による点検とする。実施頻度には限りがあることから年 1 回、時期は葉が茂っており枯枝を発見しやすいこと、台風シーズン前で落枝を未然に防げることから 6～7 月を基準とする。
- 点検時には次ページ以降の資料を参考にされたい。
- 目視点検により変状や異常を発見した樹木については、応急措置が可能な場合を除き診断（健全度判定）を行い診断票を作成する。
- 特に緊急対策が必要な状況を発見した場合は速やかに常磐公園管理事務所に連絡する。
- 樹木を伐採する評価（将来的な伐採を含む）となった場合、更新樹木の要否や樹種等を都度検討し、「更新木の検討票」を作成する。
- 作業の流れは次の表のとおり。

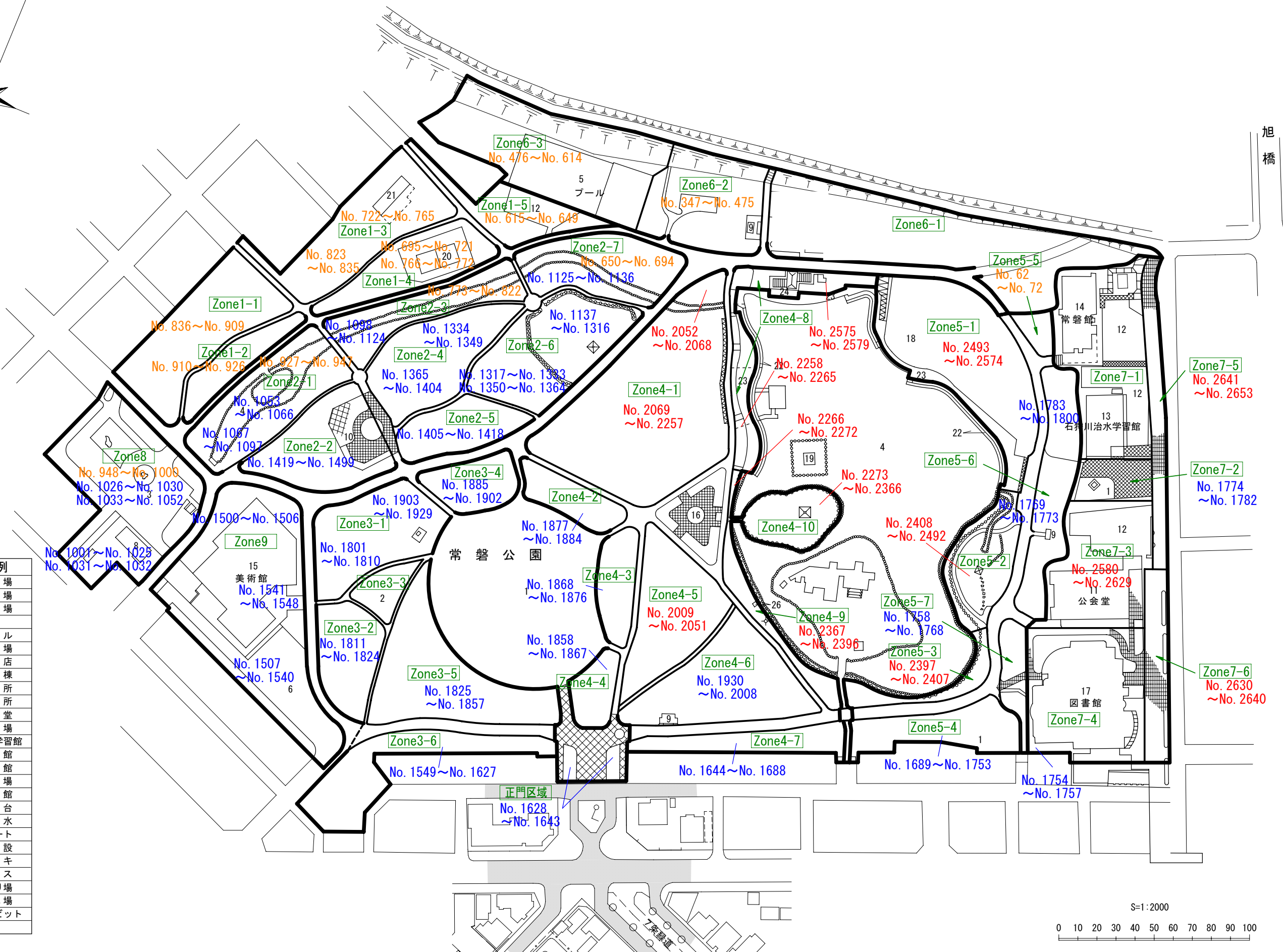
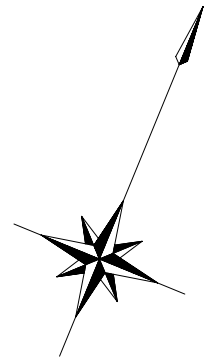


参考資料

常磐公園

調査ブロック平面図

常磐公園及び築堤法面部立木調査ブロック平面図

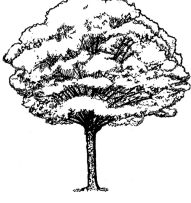
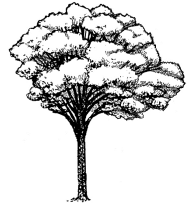
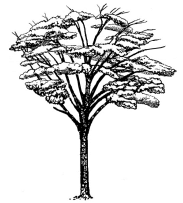


凡 例	
1	自由広場
2	芝生広場
3	遊戯広場
4	池
5	プール
6	駐車場
7	売店
8	管理棟
9	便所
10	休憩所
11	公会堂
12	駐車場
13	石狩川治水学習館
14	常磐館
15	美術館
16	修景広場
17	図書館
18	天文台
19	噴水
20	テニスコート
21	浄化施設
22	水中デッキ
23	水上テラス
24	ボートのり場
25	管理駐車場
26	地下ポンプビット

S=1:2000
0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100

点検時判定資料

樹勢・樹形の活力度診断基準表

診断項目	活力度				
	1	2	3	4	5
					
樹勢	旺盛な生育状態を示し、被害が全く見られない	いくぶん被害の影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状態が劣悪で回復の見込みが低い	ほぼ枯死している
・枝の伸長量	良好	いくぶん少ないがあまり目立たない	枝は細くなり短い	枝は極度に短小、ショウガ状の節間がある	ほとんど成長していない
・梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるがあまり目立たない	多い	著しく多い	ほとんど枯損している
・下枝の先端の枯損	なし	少しあるがあまり目立たない	多い。切断が目立つ	著しく多い。大きく切断されている	ほとんど枯損している
・枝や幹の枯損、損傷	なし	せんこう穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古い傷が残る	腐朽、空洞が著しい	大きな腐朽、空洞、樹皮の剥がれがある
・剪定後の巻き込み	巻き込みが早く良好	普通	やや遅く剪定断面が残る	著しく不良で剪定断面が腐朽	巻き込みが見られず腐朽が著しい
・葉の大きさ	良好	所々に小さい葉がある	全体的にやや小さい	全体的に著しく小さい	小さな葉がわずかしかない
・葉の色	良好	少し変色が見られる	変色が多い	変色が著しい	ほとんどが変色している
樹形	望ましい樹形を保っている	若干の乱れはあるが、望ましい樹形に近い	望ましい樹形の崩壊が進んでいる	望ましい樹形がかなり崩壊し回復の見込みが低い	望ましい樹形が完全に崩壊している
・枝葉の密度	枝と葉が密でバランスがとれている	普通。活力度1に比べてやや劣る	やや疎	枯枝が多く葉の発生が少ない。密度が著しく疎	ほとんど枝葉がない

活力度3以上が1つでもあれば診断（健全度判定）の対象とする。

点検の視点

樹木全体を見る

- ・ 樹木の活力が低下していないか。
- ・ 頂部が枯れ下がっていないか。
- ・ 枯枝が多数発生していたり、生きた枝葉の量が極端に少ないか。
- ・ 葉の大きさが著しく小さい、又は葉の密度が著しく少ないことはないか（周辺の同樹種と比較）。
- ・ 樹木全体又は一部に、倒木や落枝となった時に、事故につながるような危険がないか。
- ・ 樹形にアンバランスな箇所がないか。
- ・ アリが大量に発生していないか。

枝～幹を見る

- ・ 大枝が枯死していないか。
- ・ 枯枝が落下する恐れがないか。
- ・ 幹及び大枝に顕著な空洞や腐朽、損傷がないか。
- ・ 幹及び大枝の分岐部が入り皮*になっていないか。
- ・ 幹や大枝にキノコ（コフキタケ、カワラタケ、アラゲカワラタケ、スエヒロタケなど）が発生していないか。
- ・ 幹などから異常にヤニが出ていないか。

地際部（根株）を見る

- ・ 幹を押すと揺らぐことがないか。
- ・ 地際部に顕著な空洞や腐朽、損傷が発生していないか。
- ・ 地際部にキノコ（ベッコウタケ、マンネンタケ、スルメタケなど）が発生していないか。
- ・ 樹木の周辺にキノコ（ナラタケなど）が発生していないか。

周囲を見る

- ・ 根によって縁石や舗装が持ち上げられていないか。
- ・ 建築限界*を超えていないか。
- ・ 枝葉が信号や道路標識、街灯等を遮っていないか。
- ・ 民地への枝の越境はないか。

点検のポイントについて

下図の項目に1つでも当てはまる場合は診断（健全度調査）の対象とします。ただし、③幹の剥がれや空洞については次ページも参照ください。

①枯れ枝：

枯れ枝が多い場合には、樹木の活力が低下している可能性があります。



②てんぐ巣病：

茎・枝が異常に密生し、立ち枝がほうき状なる状況です。多発すると樹木が衰退する可能性があります。



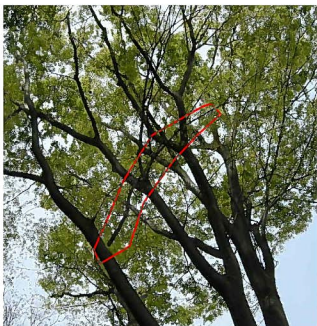
③幹の剥がれや空洞：

樹皮の欠損や、枝の抜けた箇所から腐朽が入る可能性があります。



④折れ枝：

枯れ枝がひっかかっており、風により落下の恐れがあります。折れた箇所が大枝の場合、腐朽する可能性があります。



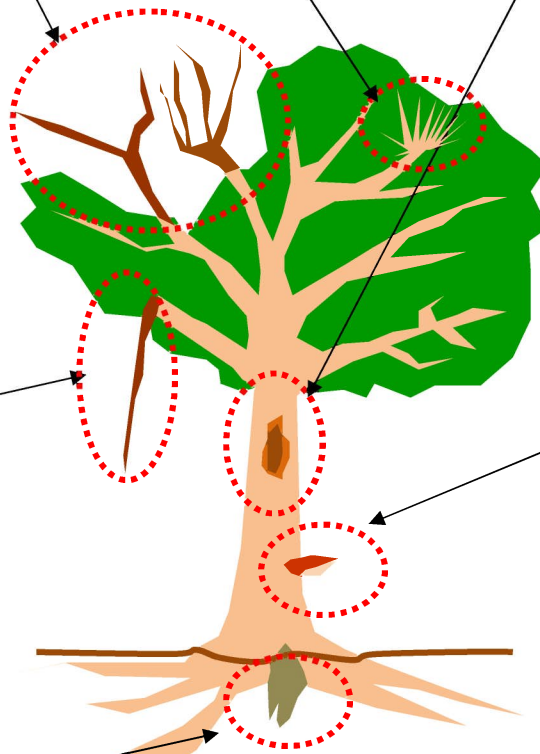
⑥根株周辺にキノコ等の菌類が発生：

根株が菌類に感染しています。根元が腐朽し、樹木が倒木する可能性が高い状態です。



⑤枝や幹にキノコ等の菌類が発生：

幹や大枝にキノコが発生している場合は、その枝が落下する可能性があります。



部位診断項目の診断ポイントと判定

樹皮枯死・欠損・腐朽（周囲長比率）

樹皮の枯死・欠損・腐朽部の大きさを測定し、当該被害箇所幅がその部位における幹の周囲長に対して1/3未満、又は1/3以上であるかを記入する。

被害について、おおよその原因を特定する。例えば、車両による接触などで樹皮が欠損し、腐朽や枯死に及ぶことがある。樹皮の薄い樹種で樹勢が弱っている場合などは、強い日差しや高温が続くと、形成層が壊死し、樹皮が溝状に腐朽・枯死することがある。

腐朽による樹皮の枯死・欠損の場合は、罹病部における材の腐朽の現状や進行状況を把握して落枝、幹折れ、倒木の恐れを判定する。心材に腐朽が進行していると考えられる場合には、鋼棒等を用いて内部の腐朽の程度などについて診断する。

樹皮枯死・欠損・腐朽の判定基準

被害・程度		判定
なし		健全か健全に近い
周囲長比率 1/3 未満	軽微な被害、または軽微な処置で対処できる	健全か健全に近い
	被害は進行していない	注意すべき被害 (必要に応じて精密診断)
	被害が進行している	著しい被害 (必要に応じて精密診断)
周囲長比率 1/3 以上	被害は進行していない	注意すべき被害 (必要に応じて精密診断)
	被害が進行している	著しい被害 (精密診断が必要)



写真Ⅲ-2・3 幹の腐朽（大）



写真Ⅲ-2・4 幹の樹皮欠損（小）



写真Ⅲ-2・5 幹の樹皮枯死（大）

(1) 樹木形状の測定

樹高、幹周等の樹木の形状を測定するとともに(写真-3.4)、樹体の傾き、樹齢、樹冠形状(自然樹形、自然相似樹形、人工樹形)、について調査する(写真-3.5、3.6、3.7)。

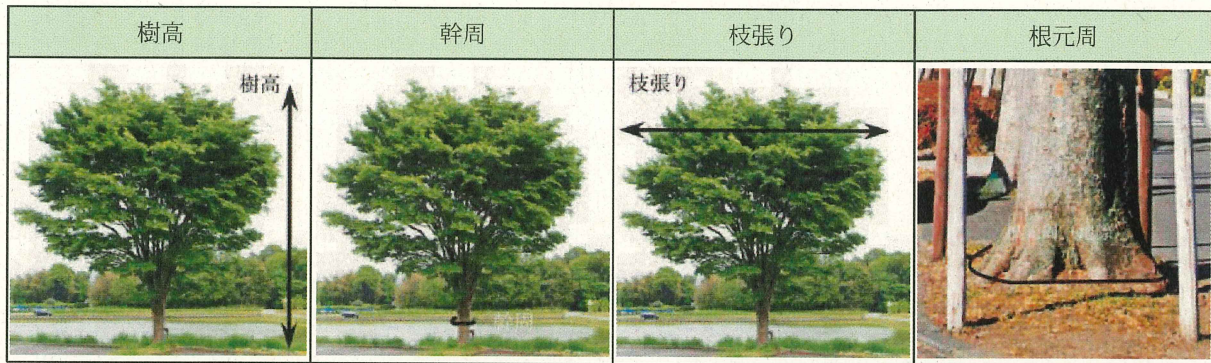


写真-3.4 樹木の形状測定



※) 直上に伸長した長さが、樹高全体の 1/3 以上のものを「安全」とし、それ以下の場合は「危険」と判断する。

写真-3.5 樹体の傾き



写真-3.6 樹木の樹齢



写真-3.7 樹木の樹冠形状

(2) 樹木活力調査

枝葉密度やバランス、新梢の成長量等による樹勢や葉の色・大きさによる葉の生育状況（写真-3.8、3.9）を把握するとともに、剪定傷等における傷口材の成長具合（写真-3.10）や病虫害による被害状況（写真-3.11）を総合的に調べることにより、樹木全体の活力を調査する。



写真-3.8 樹木活力等の指標：樹勢・葉の生育状況（広葉樹）



写真-3.9 樹木活力等の指標：樹勢（ヤシ類）



写真-3.10 樹木活力等の指標：傷口材の成長

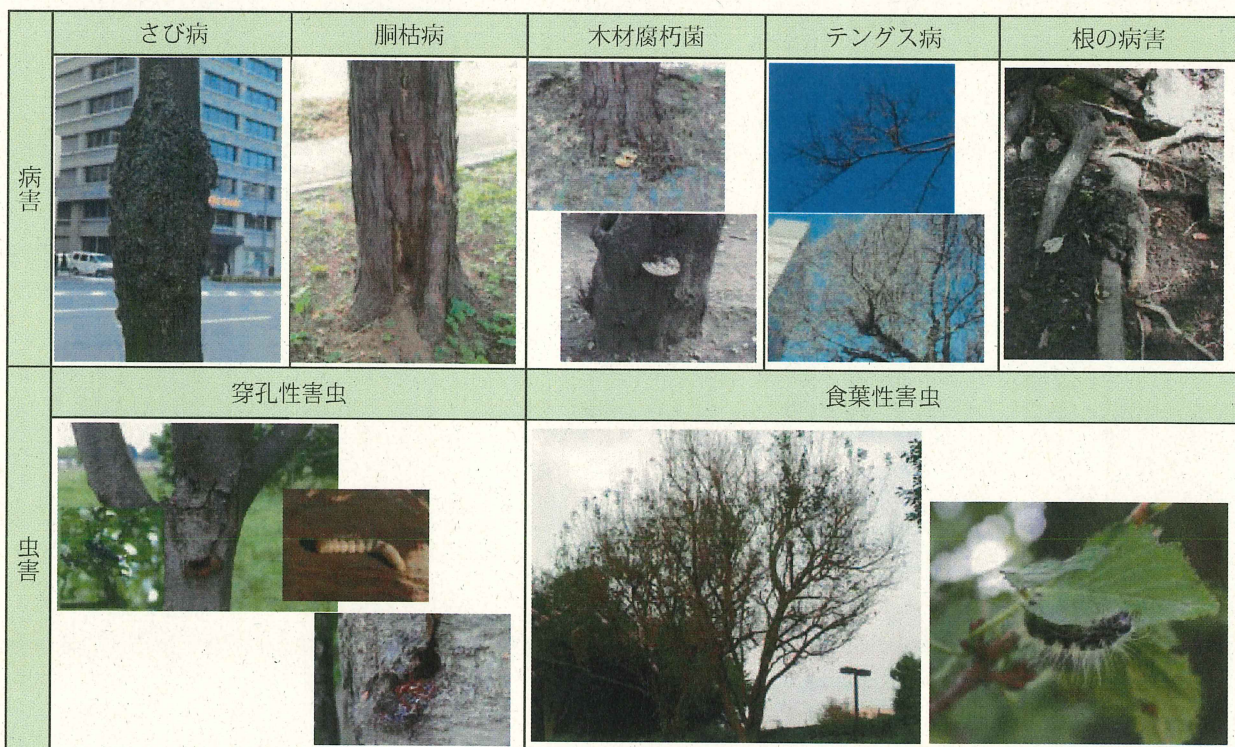


写真-3.11 樹木活力等の指標：病虫害による被害状況

診断票・評価資料

診断票(総括表)

[illegible]

注意すべき実生木

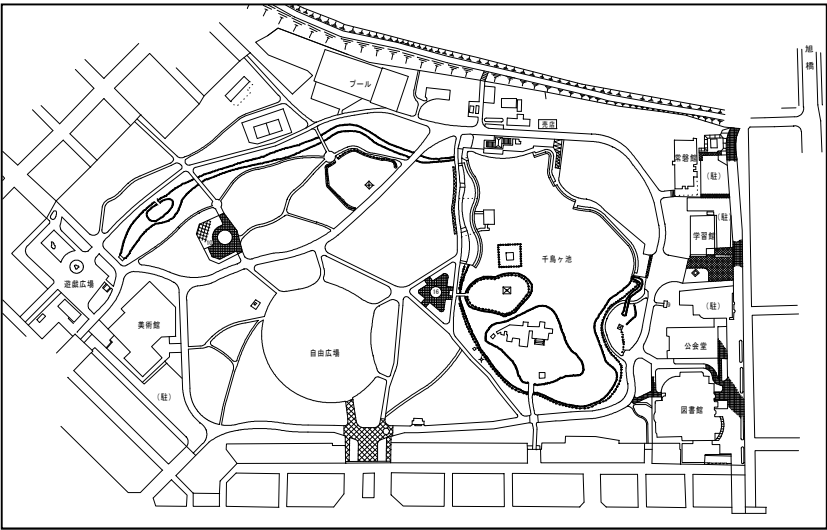
樹木番号	ゾーン	樹種	発見日	対応策

診断票

樹木番号	
調査者名	

平成	年	月	日	調査
----	---	---	---	----

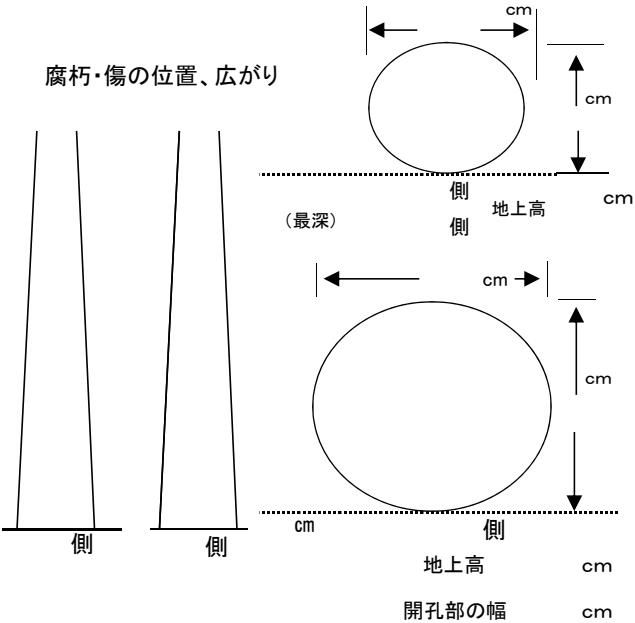
位置図



箇所別		1	2	
樹木の健康度	傷の位置	側	側	
	傷の大きさ	縦	cm	cm
		幅	cm	cm
		深	cm	cm
		地上高	cm	cm
	腐朽の位置	側	側	
	腐朽の大きさ	縦	cm	cm
		最大幅	cm	cm
		最深	cm	cm
		最深部幹径	cm	cm
根部の腐朽状態				
生物の営巣等				

ゾーン	
調査木の現況	樹種
	樹高H
	枝下高
	葉張W [×] m
	幹周C
支柱の種類	
植付形状	
	L × W m

腐朽・傷の位置、広がり



活力度ランク	樹勢	枝伸長量	上枝先端枯損	下枝先端枯損	枝幹枯傷	剪定巻込
	葉の大きさ	葉の色	枝葉密度	病状	キノコ	

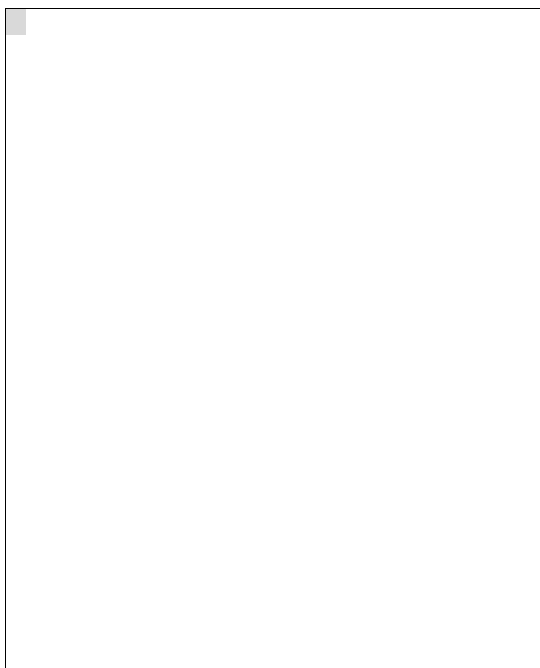
総合評価	経過観察	危険	
		本格措置	要伐木

特記事項	
所見・今後の対策	

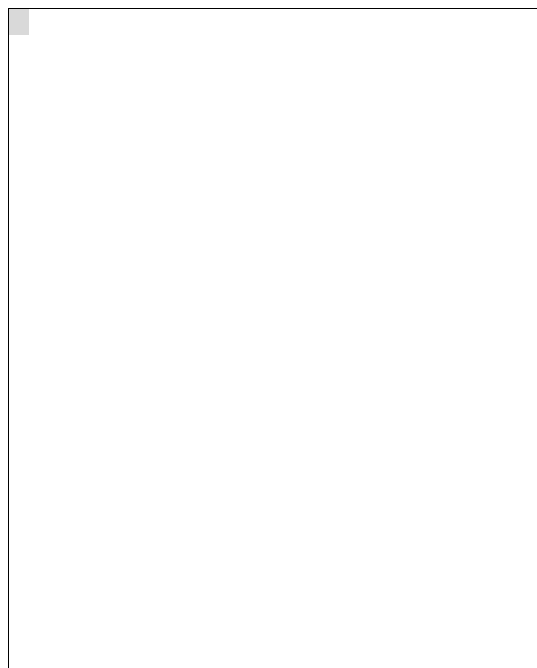
関係写真

ZONE

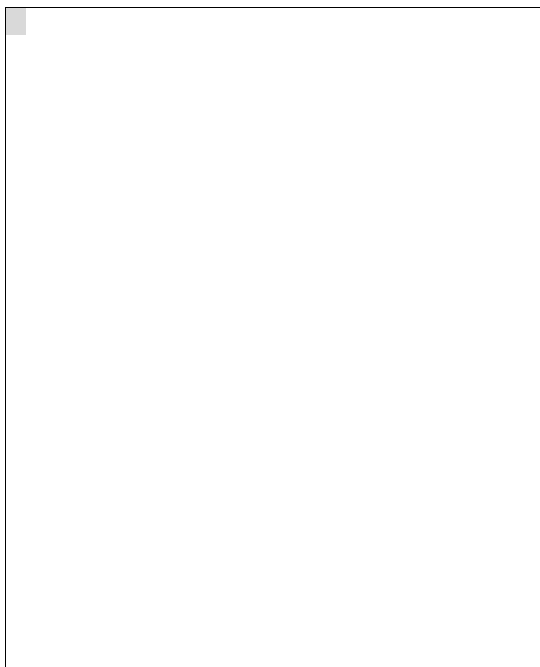
樹木 No.



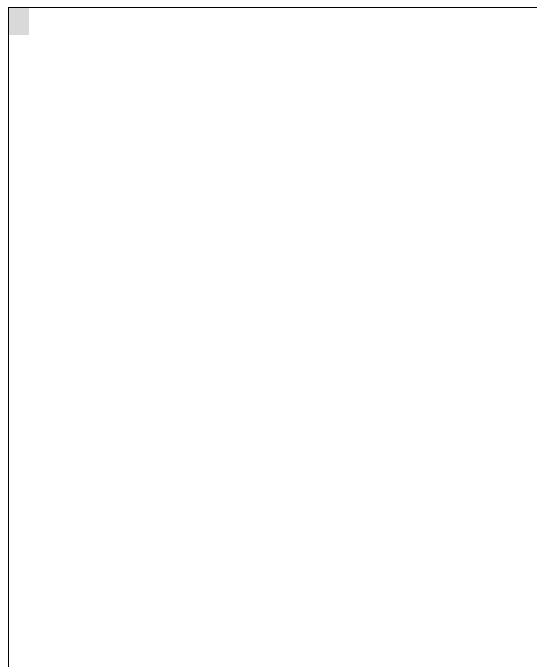
樹冠状況



大きな心露出腐朽傷



根元状況



治療跡？の古釘が露出

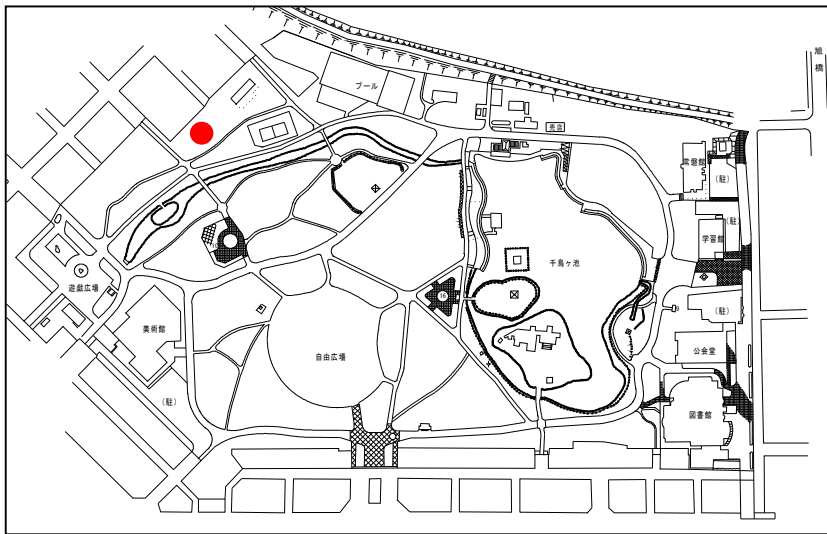
診断票

記載例

樹木 No.	1
調査者名	大窪

平成30年 3 月 9 日 調査

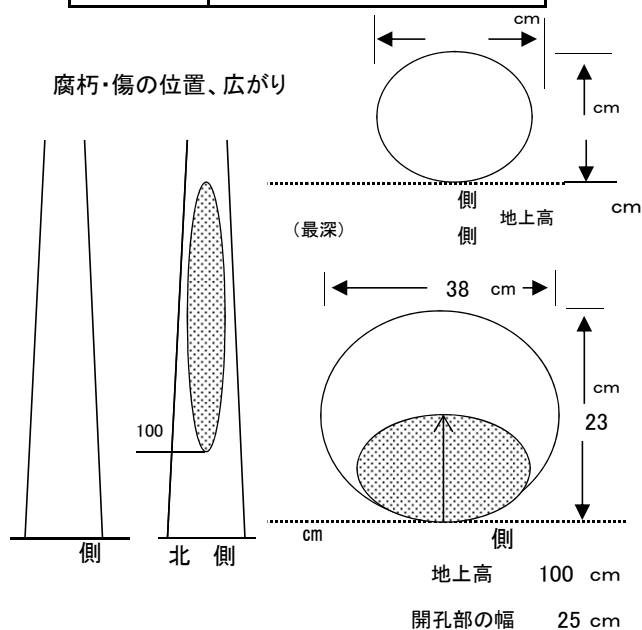
位置図



箇所別		1	2
樹木の健康度	傷の位置	側	側
	傷の大きさ	縦	cm
		幅	cm
		深	cm
		地上高	cm
	腐朽の位置	北側	側
	腐朽の大きさ	縦	300 cm
		最大幅	25 cm
		最深	11 cm
		最深部幹径	23 cm
	根部の腐朽状態	軽微	
生物の営巣等		なし	

公園名		常磐公園	
ZONE		1－3	
調査木の 現況	樹種	スモモ	
	樹高H	8.5	m
	枝下高	2.6	m
	葉張W	[8.0 × 7.0]	8.0 m
	幹周C	120	cm
支柱の種類		なし	
植舛形状		なし	
		L × W m	

腐朽・傷の位置、広がり



活力度ランク	樹勢	枝伸長量	上枝先端枯損	下枝先端枯損	枝幹枯傷	剪定巻込
	3	3	3	3	5	4
	葉の大きさ	葉の色	枝葉密度	病状	キノコ	
	—	—	—	なし	あり	

総合評価	経過観察	危険	
		本格措置	要伐木
		○	

特記事項	周辺に公園施設なし、民地(マンション)まで6m、樹冠被圧北側偏在、切枝部にキノコ、小動物等の営巣跡なし
所見・今後の対策	倒伏の危険性が大きい、伐採が妥当であると考えられるが、公園施設や民地が周辺にないことから、生態系配慮の観点から主幹のみ残すことも検討する。

関係写真

ZONE 1-3 樹木 No. 1



全景



主幹全体枯死



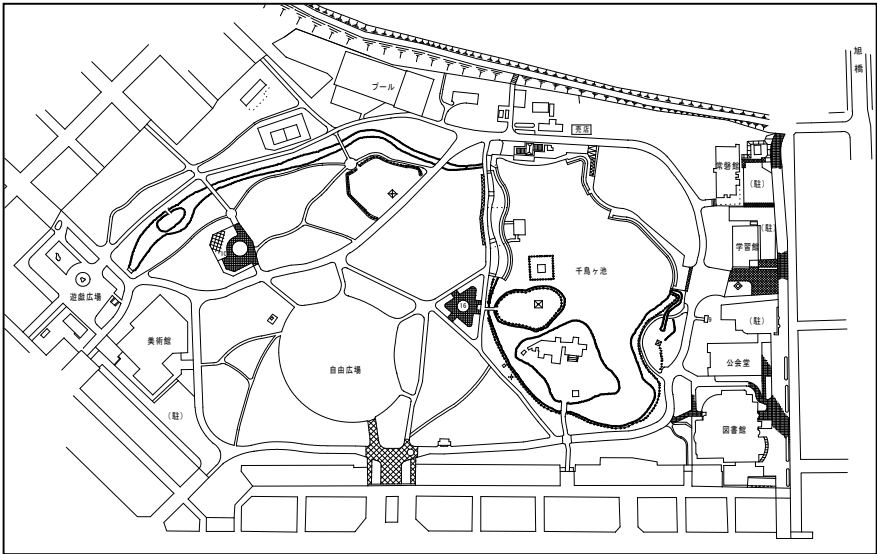
根元状況



芯露出腐朽傷激大

更新木の検討表

対象樹木の現状



樹木番号		樹種	
ゾーン		総合評価	
対応策			
周辺の景観			
周辺樹林密度			
その他周辺状況			
生物の利用			
来園者の利用状況			
特記事項			

現況写真

検討時意見

更新樹木

更新方針・所見